

探訪!
O&M拠点



センターでは太陽光発電設備を設置し、発電性能や対候性の検証も行っている

パネル不具合の原因を追究 サンテックの 長野・技術センター

太陽光パネルメーカーならではのO&Mを展開するサンテックパワーージャパン。パネルの不具合原因を追究し、メーカー保証が受けやすくなるよう事業者を支援している。同社の技術センターを訪れた。



(左)品質性能試験ラボの様子。様々な試験装置が並ぶ (右)監視センターの様子

グループの齊藤武則シニアエキスパートは、「パネルの不具合の原因を調べ、初期不良だった場合は発電事業者がメーカーから保証を受けやすくなるよう資料を作成し、提供した」と実績について語る。

長期にわたって、日本で事業を展開してきた経験も強みの一つだ。サンテックパワーージャパンは前身のMSK時代、1981年に日本で太陽光パネルの販売を開始。89年には後に現在の長野テクニカルサポートセンターとなる長野プラントを開設し、屋根一体型などのパネル製造を手掛けた。

そして15年には太陽光発電所の保守に活かすべく、O&M事業を開始。自社の太陽光パネルが使用されていない太陽光発電所も含めて、現在17カ所計約42MWの太陽光発電所をサポートしている。

日体制で太陽光発電所を遠隔から監視している。トラブルが起きた場合に迅速な対応を目指すことはもちろんだが、遠隔監視で集めたデータを分析し、「発電所の不具合を予測できるようなしていく」と齊藤シニアエキスパートは話す。

さらに、自社も含めて様々なメーカーのパネルデータが収集できるのもメリットで、同社はO&M事業で得た知見を「社内でも共有し、パネルや取付金具の製品開発、発電事業などにも活かしている」(齊藤シニアエキスパート)。

施設内には20年以上前に製造していたガラス建材型パネルなどを展示している。これまでの歴史を噛みしめながら、これからも太陽光発電所の安全を守っていく。

東

京から新幹線で1時間あまり。長野県佐久市にある『長野テクニカルサポートセンター』は、サンテックパワーージャパンのO&M拠点だ。同社はこの場所で遠隔監視やパネル試験のほか、施工・メンテナンス会社向けの研修も行っている。

施設内には、太陽光シミュレーターやEL試験装置、サイモグラフィといった性能試験装置に、恒温恒湿槽、温度サイクル試験槽、複合サイクル試験機などの環境試験装置

がずらりと並ぶ。同社はここで不具合パネルを試験し、故障の原因を追究している。発電事業者の困りごとの一つに、太陽光パネルのメーカー保証が受けられないという問題がある。パネルの故障がメーカーの瑕疵によるものであることを発電事業者が証明しなければならず、技術的なハードルが高いのだ。

そこで、太陽光パネルメーカーのサンテックは、この技術センターで、自社のパネルはもちろん他社のパネルも含めて、不具合パネルの原因を

細かく追及。事業者がメーカー保証を受けられるように、技術的なサポートを実施している。

同社によれば、メーカー保証を受けるためのポイントは、初期不良か経年劣化かの見極めである。それゆえ、同社は現場で検査機器を用いて不具合を発見した場合、施設に持ち帰って性能試験を行う。その結果をもとに分析するわけだが、工場出荷時の試験データなどを参考にしながら原因を探るといふ。

同社のIPP・O&M技術

O&M事業を 横展開

同社は24時間、365



長野テクニカルサポートセンターの外観。訪問日は4月では珍しく大雪だった